

10. 01. 2022
@まちづくりHUB project in金沢

あらゆる市民がつながる パートナーシップによるまちづくり ～つながりのなかの「中間支援」～

東京都立大学 法学部 教授
大杉 寛

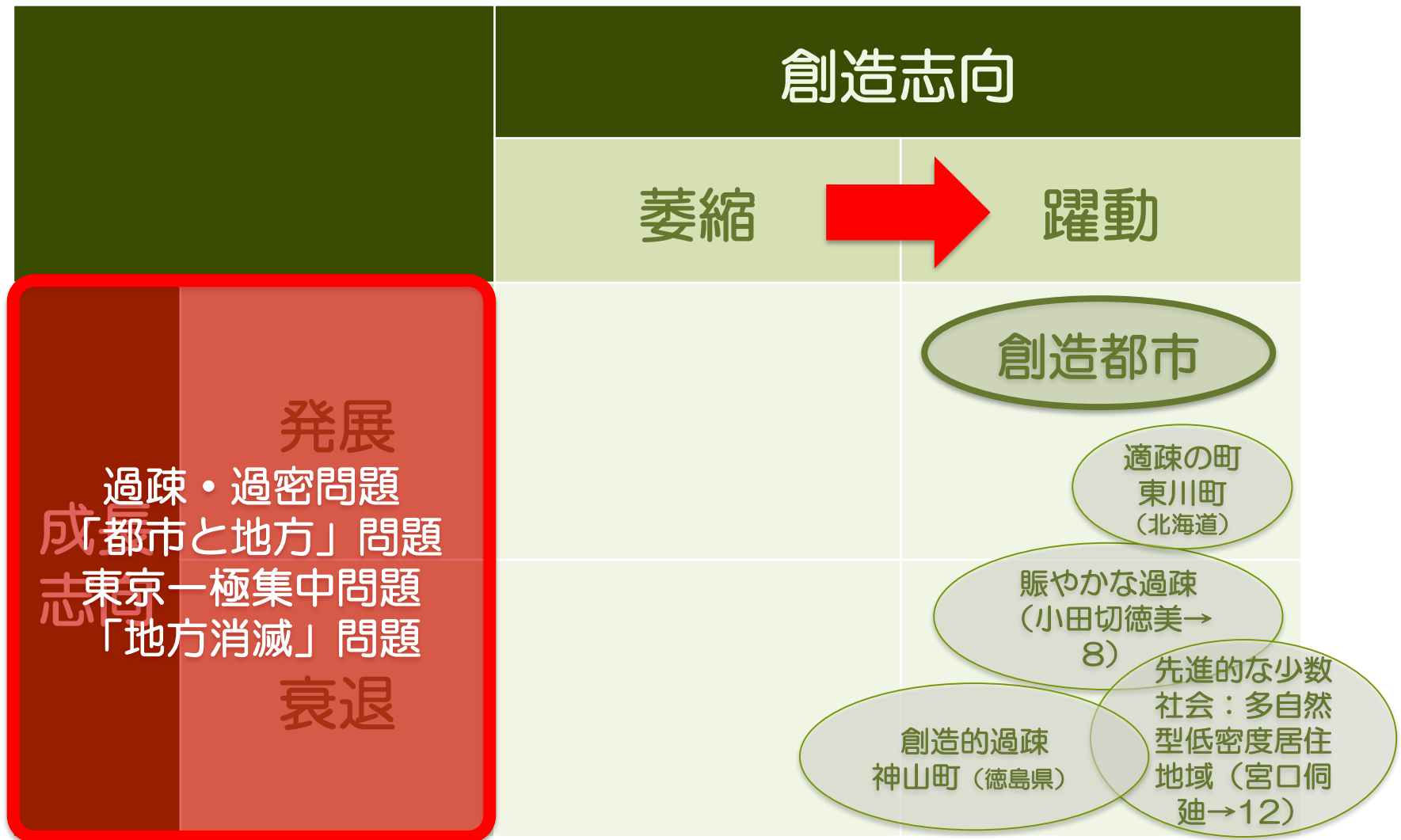
Q.コロナ禍での地域・市民活動は？

- コロナ禍で三密など行動規制がかかるなかで、皆さんは地域や市民活動にどのように関わってきたのでしょうか？
- コロナ禍で問題になったことは、コロナ禍だからこそその問題だったのでしょくか？（コロナ禍がなくても…）

「適疎・適密」社会という発想

- コロナを乗り越えた先の「新しい日常」に求められる社会として…
 - どのような立場にあっても孤立して取り残されることがなく、かといって、過度に人口や社会経済活動が集中してギスギスすることのない社会
 - 豊かで創造的な暮らしが可能な程度に、適度に人と人のつながり・交流が確保された暮らし心地のよい社会
- 成長志向だけではなく、**創造**志向を重視する社会が「**適疎・適密**」社会

「適疎・適密」社会とは？



「創発」を促すプラットフォーム

- 「適疎・適密」社会にふさわしい市民パートナーシップとは、「創発」を促すプラットフォームであることが大切
- そのためには… 3つの条件
 - ① 誰もがギフトを輝かせられるという理念
 - ② 人財の好循環
 - ③ ①②を支える中間支援組織

人って「材料」？

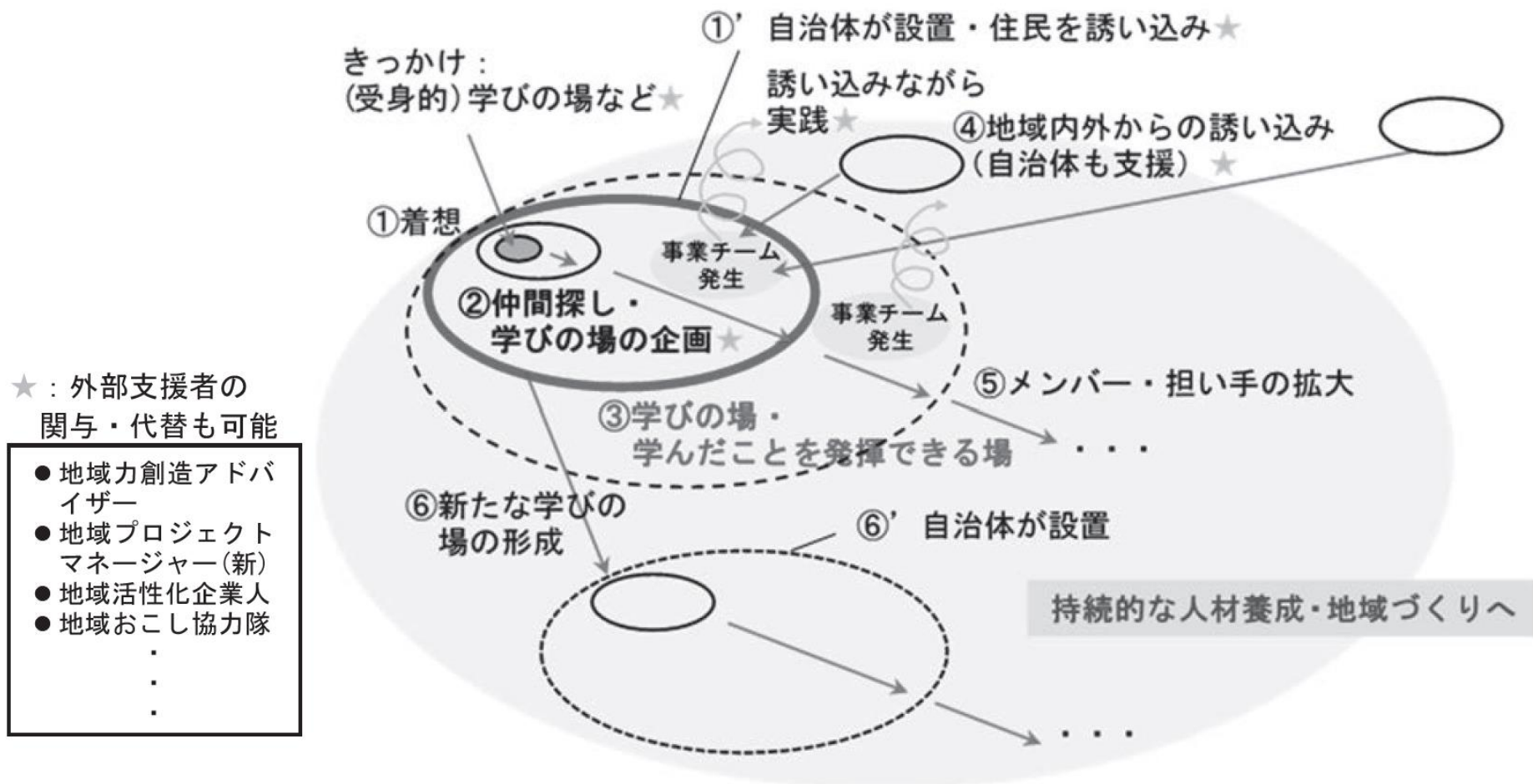
- 「人材」：地域づくりに欠かせない資源（リソース）、という捉え方
- 通俗的な組織論で述べられる5つのジンザイ：人財・人材・人在・人罪・人災
- 市民パートナーシップでは、企業など目的志向的な組織とは違って、開かれた場・機会であることから、有用性を基準としたリソースの視点だけでは語れないのでは？

ギフトとしての「人財」

- 誰もが財宝＝ギフト（才能・贈物）としての「人財」
- 本当に「担い手不足」か？～地域には人がいる、若者がいる、女性がいる、活動する人たちがいる、から出発
- 誰もがその持つギフトで輝くような、**出番**づくりや**役割回**転role rollingなどの条件整備が重要

「人財の好循環」の見える化を

■学びの場づくりとその発展（イメージ）



地域づくり人財の4つのチカラとは

	空間（場）の つながり	時間（プロセス）の つながり
ともに 寄り添う with(in)	現場実践するチカラ	伴走するチカラ
乗り越える beyond	越境するチカラ	未来を拓くチカラ

「中間支援組織」とは

- NPOをサポートする議論からはじまった「中間支援」の考え方

例：内閣府「多元的社会における共生と協働という目標に向かって、地域社会とNPO の変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者とNPO の仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織」（内閣府『中間支援組織の現状と課題に関する調査』2002 年、
<https://www.npohomepage.go.jp/uploads/h13b-1.pdf>）

「中間支援組織」の主な機能

- **媒介機能**：支援者と受援者を仲介し結びつけるインターメディアリー intermediary
- **伴走機能**：時間的には継続的・中長期的な、空間的にはネットワーク的・多次元的なサポートやその体制整備
- **先導機能**：支援者・受援者双方に対して相談・指導を通じて理念・志向・技術などを普及

【例】NPO法人きらりよしじま①

- 川西町（山形県）吉島地区
 - NPO法人きらりよしじまネットワークによる次代を担う若手世代の積極的登用
 - 中間支援組織おきたまネットワークサポートセンターの実践的な若手人材育成



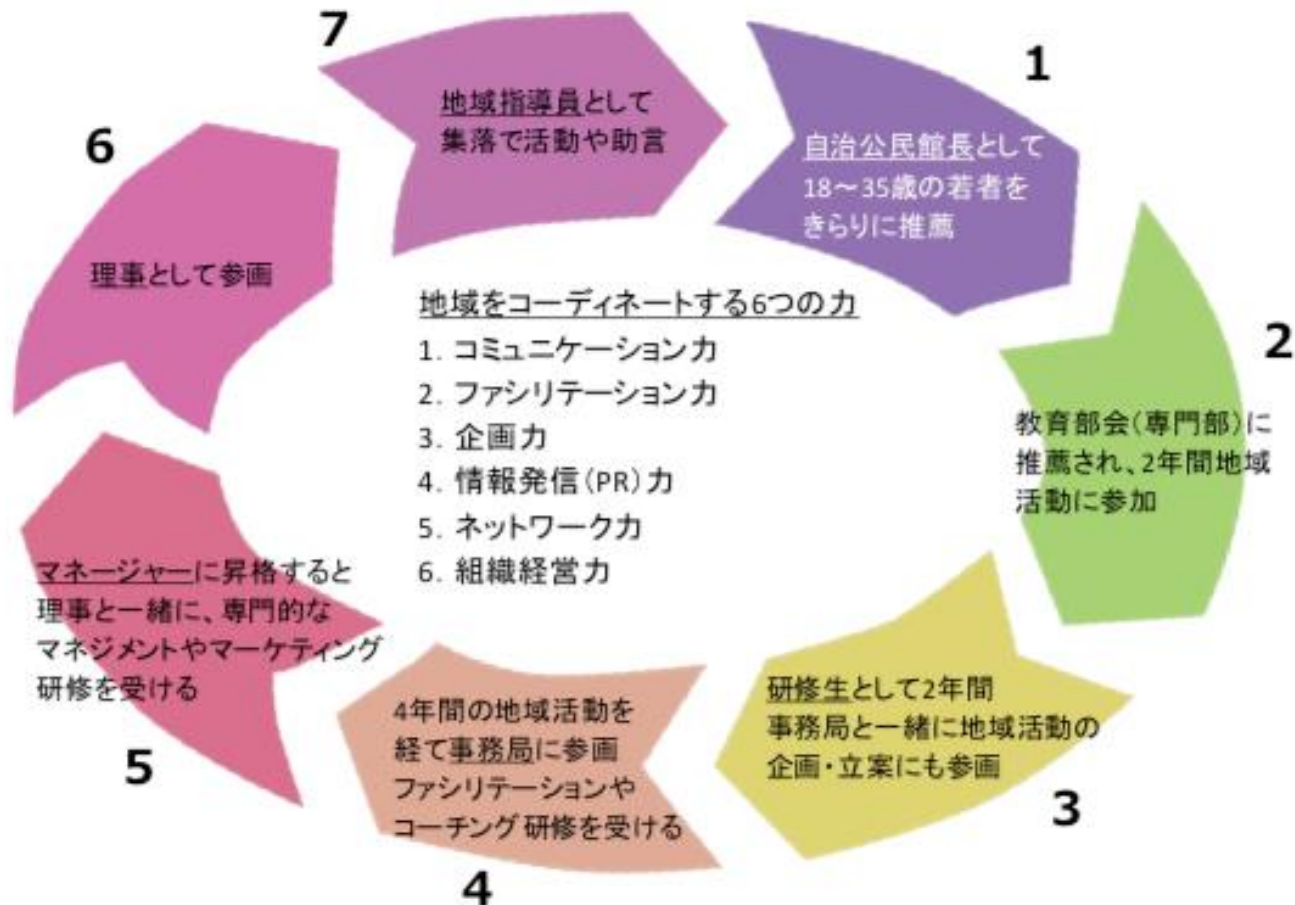
画像

◀・NPO法人きらりよしじまネットワークのウェブサイトには、法人化した経緯、「地域運営組織形成のための手順書」といったマニュアルが整備されており大変参考になる

<http://www.e-yoshijima.org>

【例】NPO法人きらりよしじま②

図表2-9 人材確保から育成までのステップ



【例】 多摩市若者会議とMichiLab

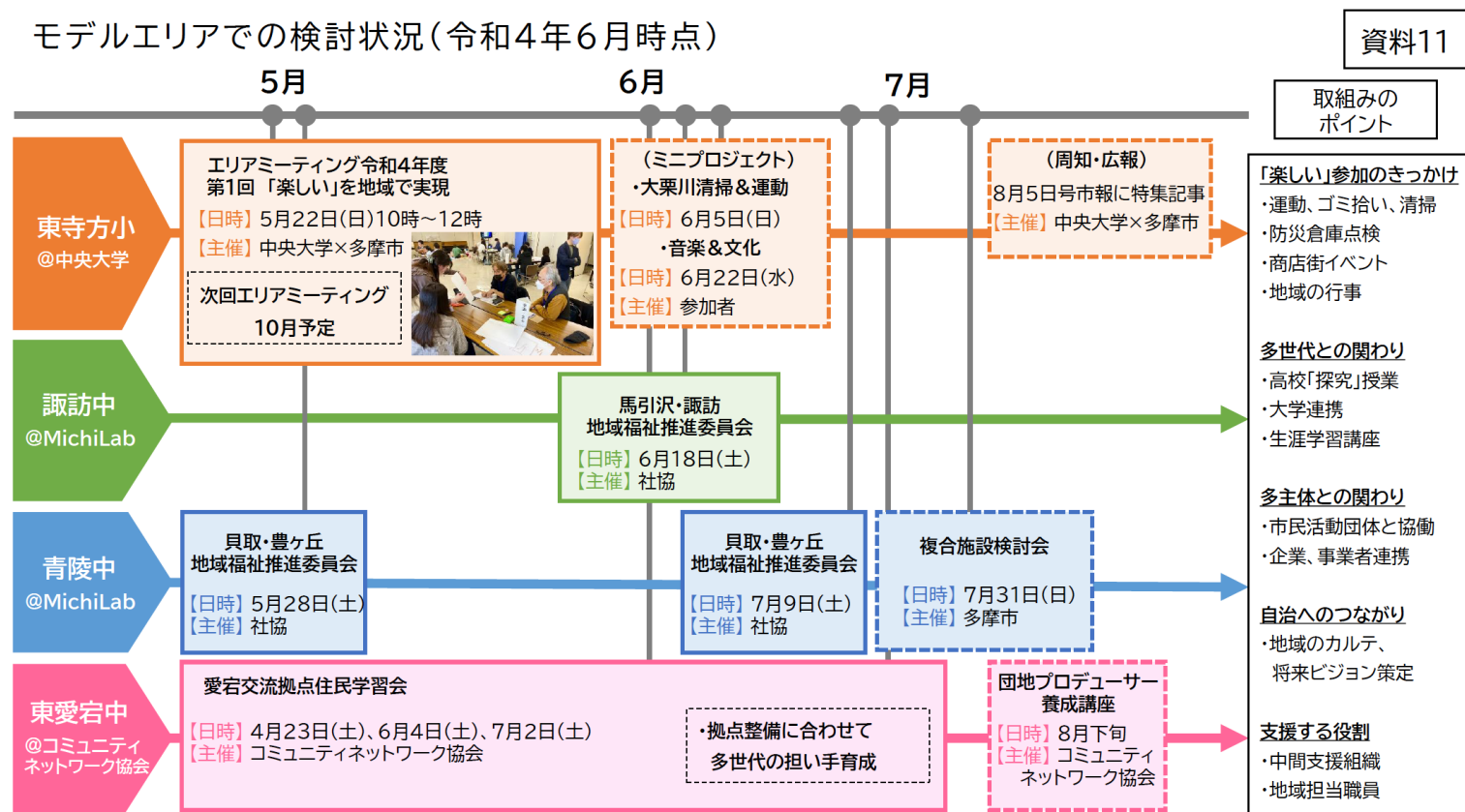


画像

市の事業として3年間の活動後、4年目からは、若者会議から自立・自走した合同会社MichiLabに運営の移行

【例】 MichiLabによる中間支援

モデルエリアでの検討状況(令和4年6月時点)



「若者会議」から「MichiLab」にステップアップ、

さらに多世代交流を担う地域の**中間支援組織**へ

←MichiLab自走のため、市はサポート（出番の提供）

【例】 牧之原市市民ファシリテーター

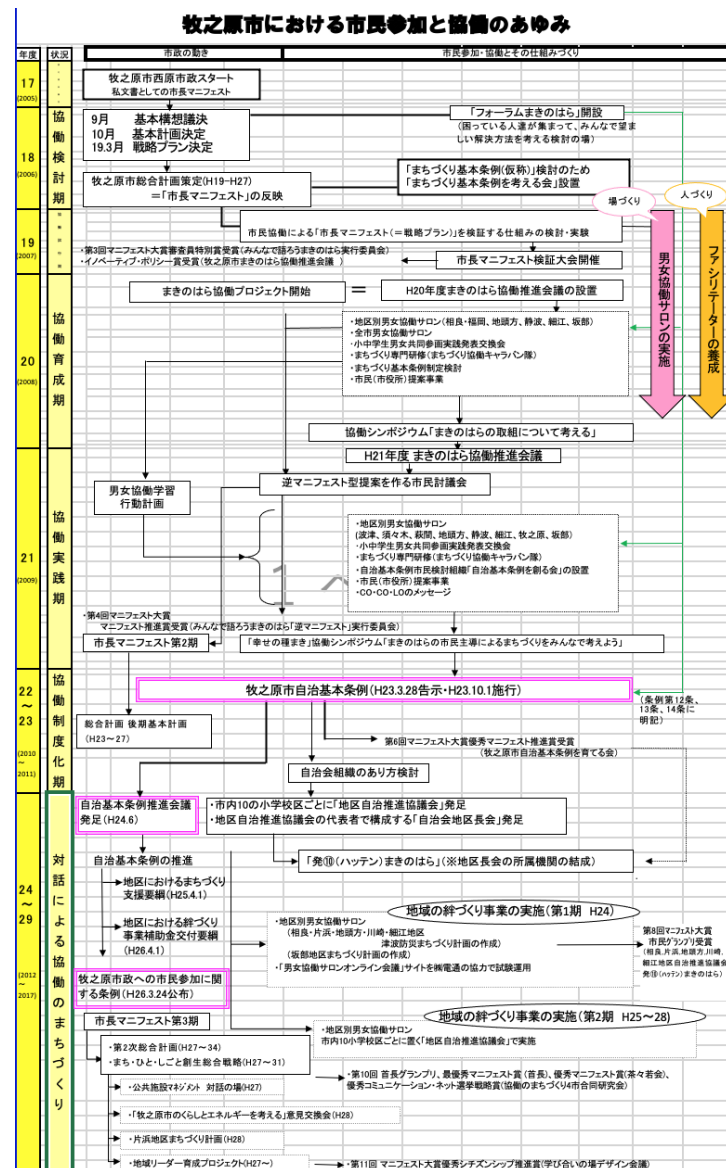
▼市民ファシリテーターによる地元高校生、住民、事業者を交えた「地域リーダー育成プロジェクト」

画像

▶・市民ファシリテーターによる進行で小学校再編に関するワークショップの開催

画像

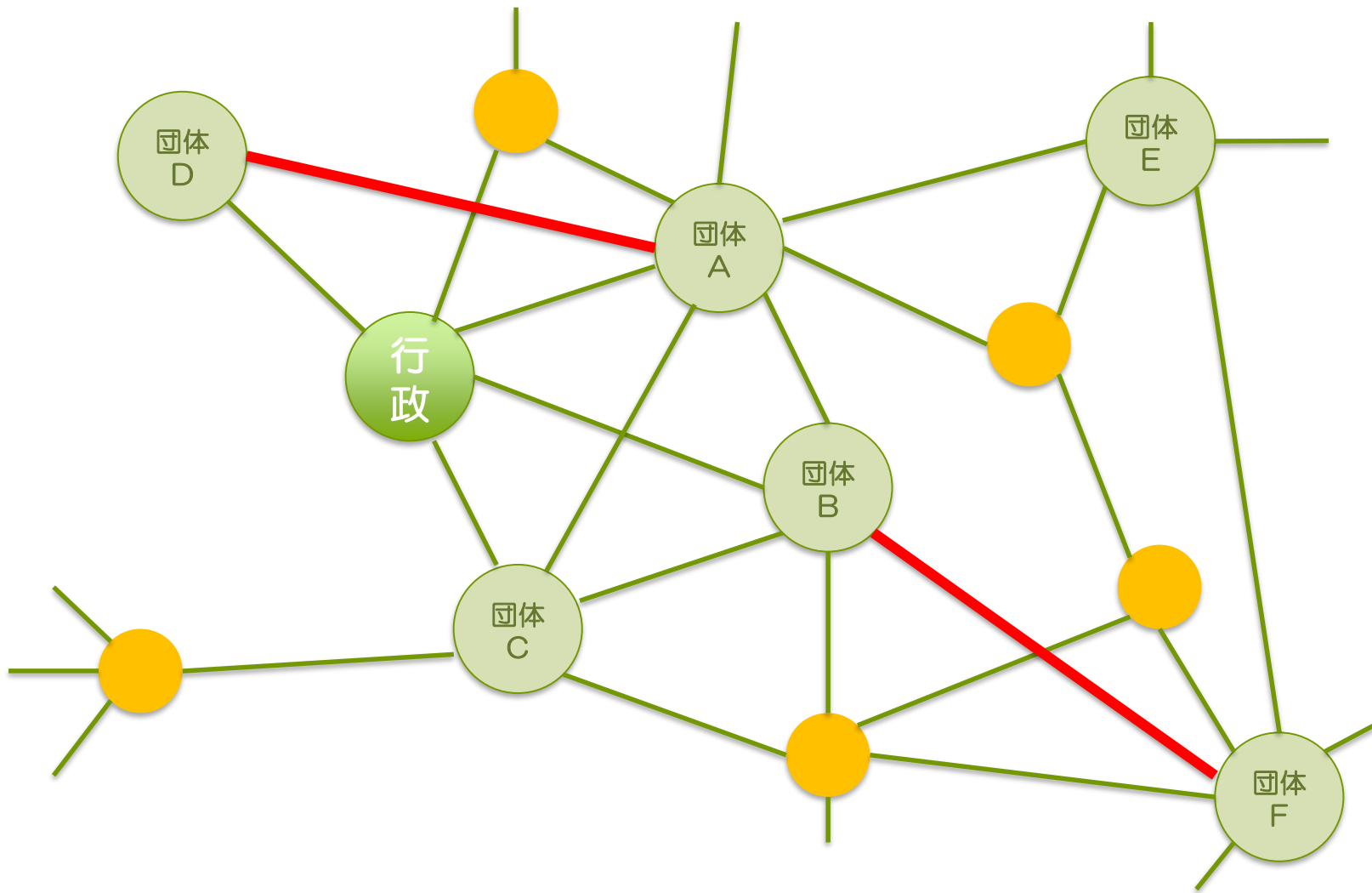
▶・市民ファシリテーター制度発足時のメンバーからなるMusubi、次世代のCLIPがそれぞれ活躍



「適疎・適密」な支え合いの関係を

- ネットワーク上の関係では、お互い同士が中間支援組織？！
- 点（単独）→線（パートナーシップ）→面（プラットフォーム）の展開を意識する！
- 依存・従属にならない、「適疎・適密」な支え合いの関係構築を！

「中間」を豊かにする～補助線を引く



Q. 「適疎・適密」な支え合いは？

- 活動を進めるなかで、他団体から支援を受けたり、あるいは逆に支援をしたりする機会がありますか？
- 何か困った時に支援を期待できる団体は思い浮かびますか？

【参考文献】

1. 一般財団法人 自治総合センター『令和2年度地域づくり人材の養成に関する調査研究報告書』（令和3年3月）<https://www.jichi-sogo.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/R2-05-chiikidukuri.pdf>
2. 大杉寛「地域で育む人財育成 ASAGOiNG人財育成のロジックとリアル」『地域づくり』2020年3月号、24～25頁
3. 大杉寛「コロナ禍と地域づくり人材」『自治日報』2021年7月9日、1面
4. 大杉寛『コミュニティ自治の未来図』ぎょうせい、2021年 ※本書の紹介記事として、<https://shop.gyosei.jp/online/archives/cat01/0000041304>参照
5. 大杉寛「日常化したコロナ禍に求められる自治体組織」『ガバナンス』2021年8月号、<https://shop.gyosei.jp/online/archives/cat01/0000041298>
6. 大杉寛「『プラスワン』で磨く自治体職員のキャリアと心」『ALPS』2022年7月号、http://www.lifeplan.or.jp/alps/alps_pdf/alps150/alps150_08.pdf
7. 大杉寛「『適疎・適密』が拓く地域づくりの視点①～③」『ガバナンス』2022年6月号～8月号
8. 小田切徳美『農村政策の変貌』農文協、2021年
9. 大森彌・大杉寛『これからの地方自治の教科書 改訂版』第一法規、2021年
10. 岡崎昌之『まちづくり再考』ぎょうせい、2020年
11. 増田寛也『地方消滅』中公新書、2014年
12. 宮口侗迪『過疎に打ち克つ』原書房、2020年